

鹿屋市の小中学校における特別支援教育の現状について

鹿屋市教育委員会 指導主事 山下 いずみ

■はじめに

鹿屋市では、約一万人の児童生徒が35校の小・中学校に通っており、特別な支援を必要とする児童生徒は県立特別支援学校まで含めると約900人、小・中学校の特別支援学級の数は138学級あり、年々増加していることは鹿児島県や全国と同じ傾向です。

今回は鹿屋市の小・中学校における特別支援教育の取組の一部について紹介します。

■学びの場

特別支援教育に関する

学びの場としては、「特別支援学校」、「特別支援学級」、そして通常の学級に在籍しながら利用する「通級指導教室」があります。

また、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒も増加しているため、小学校全23校と中学校8学校には合計で59人の日常生活活動の介助や学習活動上のサポートを行う「特別支援教育支援員」の配置も行っており、全ての児童生徒にとつて分かりやすいユニバーサルデザインの環境、授業づくりを進めたりしています。

■特別支援学校との連携

児童生徒一人ひとりに合った支援を行うため、特別支援学校の教師のアドバイザーをもらえる巡回相談など専門的な視点も取り入れながら、担任の教師、校長、教頭、特別支援教育コーディネーターや関係する職員などを交えた支援体制についての話し合いを随時行っています。

また、教職員のスキル向上や、よりよい教育を児童生徒に提供することを目的に、鹿屋市独自の取組として、鹿屋特別支援学校と協力して、関係する全職員を対象にした特別支援教育サマーセミナーを夏休み中に行い、ニーズに応じた研修の機会を設けています。

に通級指導教室がない「他校通級」は、保護者と一緒に週1回1時間程度、通級指導教室が設置された学校へ通います。



鹿屋小の通級指導教室(トランポリンなど環境が整っている)

通級指導教室が在籍教員が在籍校へ出向いて指導を行う「巡回型通級指導教室」として今年度から鹿児島県のモデル事業として鹿屋市で始まり、保護者の送迎と、移動に要する時間がかかるという負担がなくなるメリットがあります。一方「他校通級」は、通級のための教室や教材が充実しているという環境面のメリットがあります。

巡回型通級指導教室(通称「巡回通級」)は新しい形の通級指導教室として今年度から鹿児島県のモデル事業として鹿屋市で始まり、保護者の送迎と、移動に要する時間がかかるという負担がなくなるメリットがあります。一方「他校通級」は、通級のための教室や教材が充実しているという環境面のメリットがあります。鹿屋市では「巡回通級」と「他校通級」のそれぞれのよさを丁寧に説明した上で、児童本人の実態や保護者の意向を尊重して進めています。中でも、通級指導教室を利用することが望ましいと就学教育相談で判断がなくても、送迎がでずに利用を断念した7組が、「巡回通級」により適切な特別支援教育を受けられるようになったことは大きな効果と言えます。



■巡回型通級指導教室

通級指導教室には「自校通級」と「他校通級」があり、在籍する学校に通級指導教室がある「自校通級」に対して、自分の学校

児童生徒にとって必要な支援はそれぞれ違います。一人ひとりがもてる力を発揮できるよう、これからも特別支援教育の充実に努めていきたいと考えています。

■まとめ

巡回通級の対象はLD・ADHD通級指導教室に通っている児童で、現在は小学校だけで実施されていますが、今後は中学校でも順次始まっていく予定です。